



事後評価 点検・検証の様式について

(2020年度通常枠 3年目PO研修)



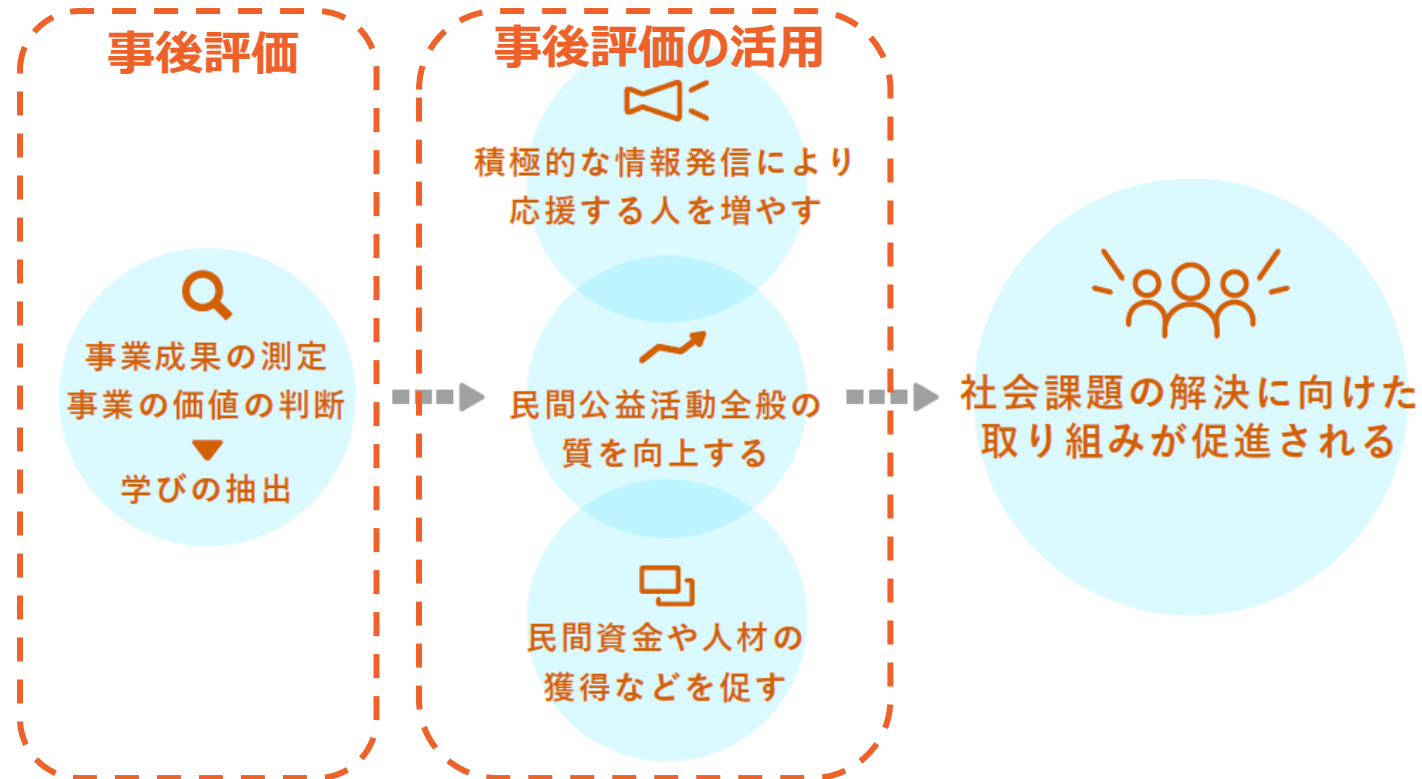
本セッションの到達目標は、以下の通りです

事後評価の様式および点検・検証の内容の位置づけとその背景を感じて頂き、作成の際の判断基準として頂く

Q.

良い事後評価
報告書って
どんなもの？

前パート 再掲



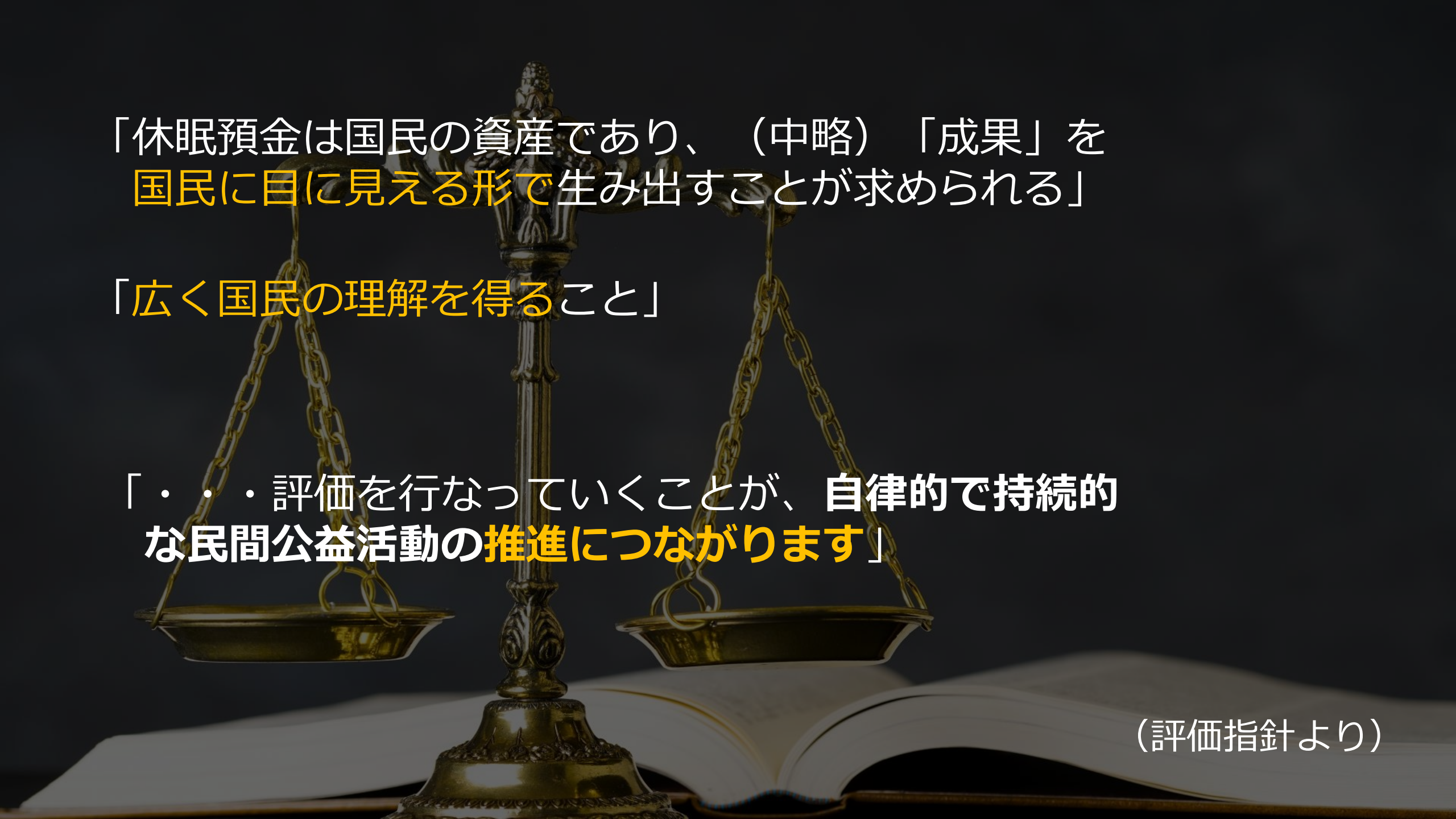
前パート
再掲

休眠預金等の制度上要請されている報告内容

自団体の強みを理解することや
支援の輪を広げるために**役立つ**報告内容

説明責任を果たすために
不可欠と考える項目です

評価結果・評価プロセスの
効果的な活用を考えましょう



「休眠預金は国民の資産であり、（中略）「成果」を
国民に目に見える形で生み出すことが求められる」

「広く国民の理解を得ること」

「・・・評価を行なっていくことが、自律的で持続的
な民間公益活動の推進につながります」

（評価指針より）

民間公益活動の
推進に
つながる

**良い
事業** × **良い
調査
分析** × **良い
記載** = **良い
報告**

(事業の質)

事業の改善
(事前～中間評価他)

(評価の質)

事前～事後評価

ハンドブック
点検

(文書化の質)

ハンドブック
書類様式
検証

事業（活動）の推進に寄与する“成果報告”を目指して



すでに実施
してきた領域

**良い
事業**

x

**良い
調査
分析**

x

**良い
記載**

=

**良い
報告**

(事業の質)

(評価の質)

(文書化の質)

事業の改善
(事前～中間評価他)

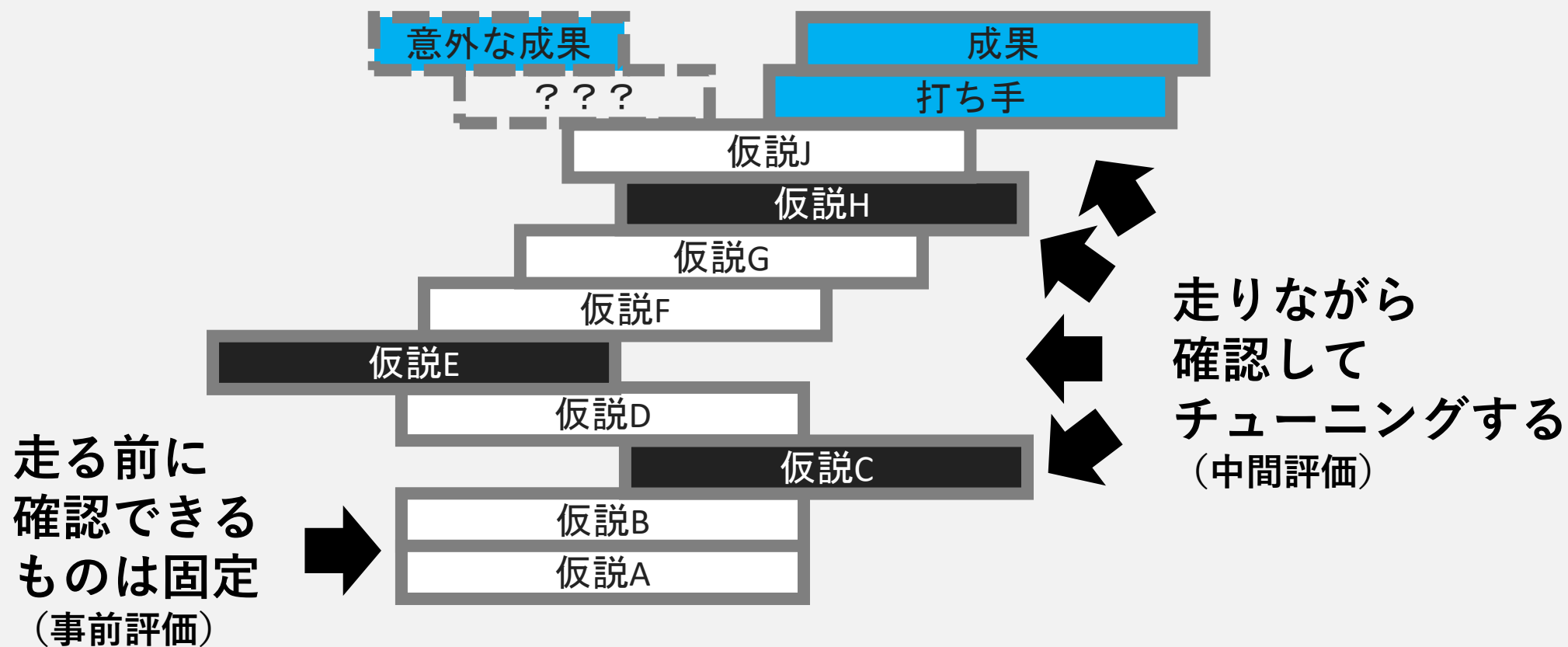
事前～事後評価

ハンドブック
点検

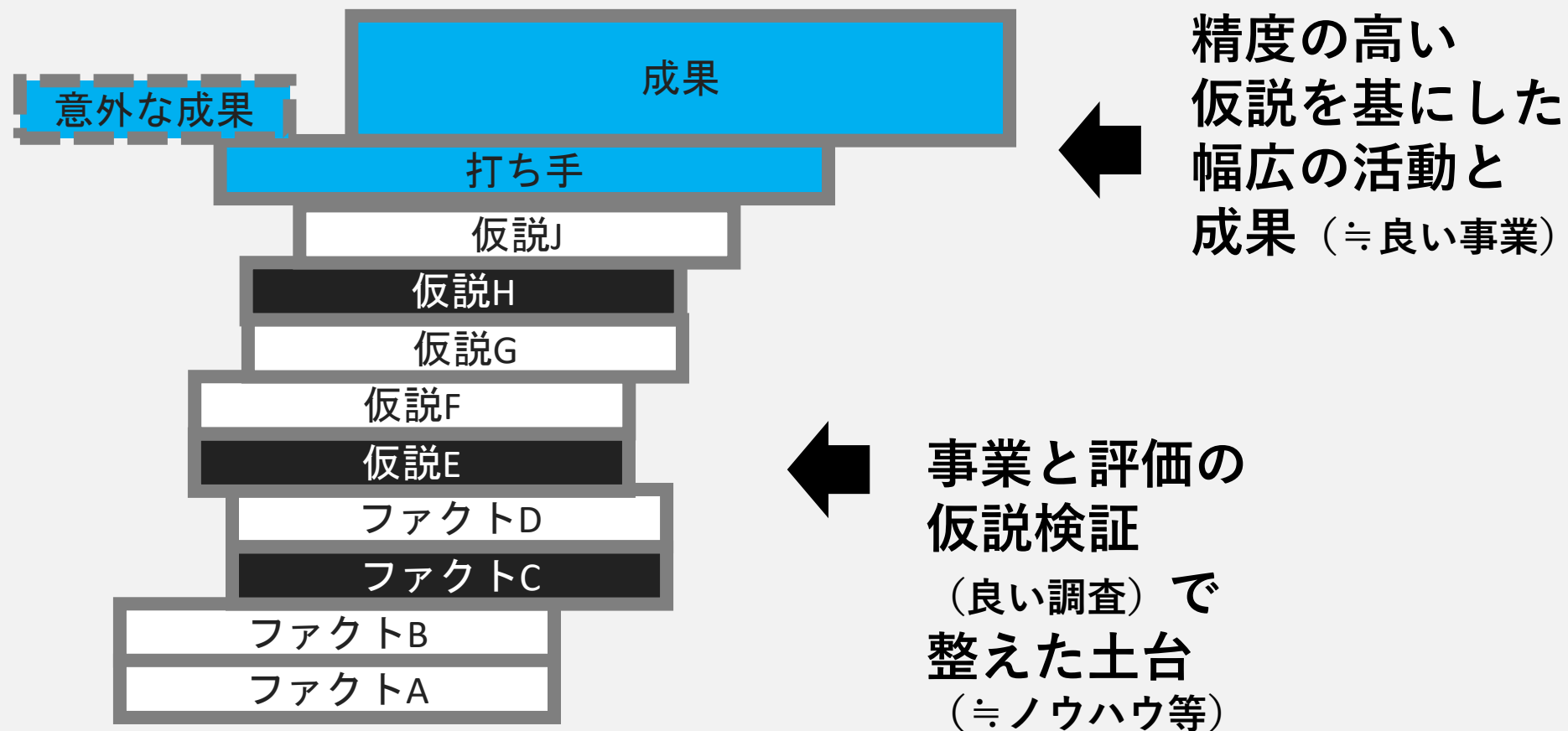
ハンドブック
書類様式
検証

走る前に分かる仮説と走ってから分かる仮説がある

だからこそキーとなる仮説は事業をやりながらも常に検証する必要がある



試行錯誤の仮説検証で支えられた打ち手と成果は強い



今回の
説明範囲

良い
事業

x

良い
調査
分析

x

良い
記載

=

良い
報告

(事業の質)

(評価の質)

(文書化の質)

事業の改善
(事前～中間評価他)

事前～事後評価

ハンドブック
点検

ハンドブック
書類様式
検証

今回の
説明範囲

どのように
良い調査分析
&
良い文書化に
つながるか？

良い
事業

x

良い
調査
分析

x

良い
記載

=

良い
報告

(事業の質)

事業の改善
(事前～中間評価他)

(評価の質)

事前～事後評価

ハンドブック
点検

(文書化の質)

ハンドブック
書類様式
検証

1. ハンドブック

2. 様式

3. 点検・検証

良い
事業

(事業の質)

x

良い
調査
分析

(評価の質)

x

良い
調査

(文書)


ハンドブック
点検



～事後評価編～

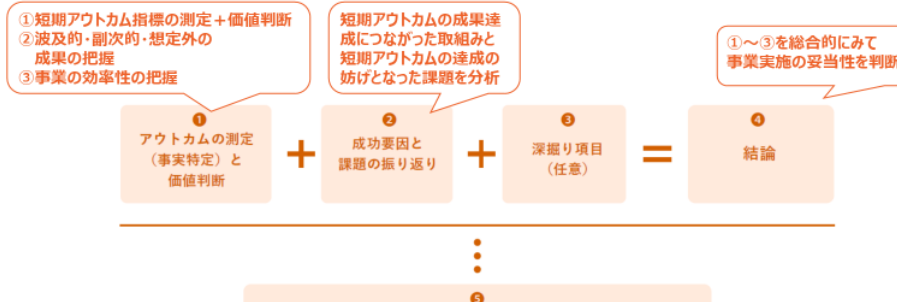


実行団体向け評価ハンドブック～事後評価編～2022年6月版

PDF形式(13.7MB) 

事後評価で行うこと

事後評価の実施内容は、以下の通りです。



事後評価の作業

アウトカム測定では、測定の信頼性・妥当性、価値判断の妥当性（比較対象設定の妥当性）が問われます。ここがしっかりしていないと、事後評価のすべてが台無しになってしまうので注意しましょう。事後評価の準備、点検のタイミングでは、ここにしっかりと注意を払いましょう。

2 具体化ポイント1：アウトカム測定の準備

1 事業計画に記載した短期アウトカム指標の測定準備を行う

- | | | |
|-----------|----------------|-----------|
| 測定準備のポイント | ①測定対象の選定 | ④集計方法の具体化 |
| | ②測定方法の明確化 | ⑤分析方法の具体化 |
| | ③測定に必要な資料などの準備 | |

評価結果の報告・活用の想定から、逆算的に考えると良いかもしれません

2 設定している指標以外の測定の必要性について検討する

事業計画に記載した短期アウトカム指標は、本来、事業が起こそうとしている変化を実際に測定し、一般の人々にその価値を伝えているか、再度確認しましょう。補足が必要であると判断した場合は、新たな指標を追加し、同様に測定準備を行いましょう。例えば、支援事例数、満足した支援対象者数など、定量指標だけを短期アウトカム指標として設定している場合には、その数字から、一般の人々に事業の価値を伝えることができるのかを考えてみましょう。



点検で調査分析の質を高める：①点検チェックリストによる自己チェック



事業名	
資金分配団体	
実行団体名	

【チェックリストの使い方】

- ・点検として事後評価計画時に、検証として事後評価報告書のドラフト提出時にそれぞれ確認を行います。
- ・「主な視点」に基づいて確認をしたらチェックを入れてください。確認の結果や判断基準、理由については右欄に記載してください。

1	アウトカム測定計画は、事業の成果を適切に捉えられているか	計画段階	実施後	
主な視点	あらかじめ設定した短期アウトカム指標の測定計画は立てられているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	短期アウトカムの指標の中で、少なくとも1つは「事業受益者の変化」を捉える指標を設定しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	多面的な測定により事業の成果を捉えられているか（受益者の変化だけでなく、非金銭的支援による実行団体自身の変化や関係団体との関係性、地域・環境の変化など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	量的な変化、あるいは質的な変化の測定に偏りはないか。（より最適なバランスにできないかの検討）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	波及性や社会ニーズへの対応など、社会的成果を捉える計画は立てられているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	※（その他）その他の視点を追加したい場合、自由に行を追加下さい（以降についても同様）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2	価値判断基準の精度を高める取り組みはされているか	計画段階	実施後	

点検・検証は、まず
チェックリスト形式での確認を実施

各項目については、
ハンドブックの内容を元に
**陥りがちなポイントや
よりよい調査分析のためのポイント**を記載

【仕様】
計画時に点検欄を☑
報告書最終化途中で検証欄を☑

点検で調査分析の質を高める：①点検チェックリスト



1	アウトカム測定計画は、事業の成果を適切に捉えられているか	計画段階	実施後
主な視点	うらかじめ設定した短期アウトカム指標の測定計画は立てられているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	指標、測り方...データ収集の準備はOKか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	定期的な測定により事業の成果を捉えられているか（受益者の変化だけでなく、非資金的支援による実行団体自身の変化や関係団体との関係性、地域・環境の変化など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	項目は事業の価値を現すのに十分か？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	公平性及社会ニーズへの対応など、社会的成果を捉える計画は立てられているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	（その他）その他の視点を追加したい場合、自由に行を追加下さい（以降についても同様）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	価値判断基準の精度を高める取り組みはされているか	計画段階	実施後
主な視点	設定した目標値は根拠に基づいたものか		
	価値判断基準は準備できたか？		
	（その他）その他の視点を追加したい場合、自由に行を追加下さい（以降についても同様）		
3	要因分析の計画が立てられているか	計画段階	実施後
主な視点	アウトカム達成の成功要因として考えられるものを洗い出し、アウトカムやアウトプットに表現できているか		
	分析の準備はOK？		
	（その他）その他の視点を追加したい場合、自由に行を追加下さい（以降についても同様）		

検討メモ

事後評価の作業

①測定対象の選定について

基本的には、定量調査の場合は母集団全体に対する調査を基本と考えると良いでしょう。

母集団の数がとても多い性質の事業の場合は、標本を抽出して調査をおこなうこと（サンプリングといいます）が現実的です。

その際に無作為抽出（ランダム・サンプリング）によって抽出された調査対象は、母集団を代表した調査対象であると言えるので、望ましいです。

一方で、定性調査の場合は、目的に応じて調査対象を選定しましょう。（目的別サンプリングと言います）

●全数調査か標本調査か

母集団
A市の市民
100,000人

標本
A市の市民
1,000人

全数調査	コスト高、精度が落ちることがある、しばしば現実的に不可能
標本調査	標本を選ぶときには母集団との偏りが生じないよう、無作為に抽出する必要があります

※神奈川大学・SDGs社会的インパクト・マネジメント実証研究において東洋大学社会学部実証研究センターが作成した資料を基に編集

Copyright 2022 JANPIA 本資料の内容を当機構に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

32

事後評価の作業 波及効果の分析

波及効果は、セオリーに描いているアウトカム以外の効果と考えていただくのがわかりやすいと思います。

波及効果の分析には、調査票の自由記述やインタビュー、またMSC（モスト・シグニフィカント・チェンジ）のような手法などで変化のエピソードを収集することなどが考えられます。

* MSCの実施方法は、全国こども食育支援センターへむすびが動画をみてください。 https://www.blue-marble.co.jp/medias/msc-movie_2212/

3 波及的・副次的・想定外の成果の可視化

当初想定したアウトカムを超えた成果が生まれているかについても検証します。波及的・副次的・想定外の成果の有無を広く確認するためには、さまざまな関係者から話を聞くなど、情報収集することが大切です。検証を誰と行うのかを計画しましょう。中間評価時点で想定外の成果を把握している場合には、事業終了時点においてその想定外の成果がどのように変化しているかや、助成終了後の影響なども検証し、想定外の成果を生んだ要因が事業のどの部分にあったのかを分析することで、ほかの事業に汎用性のある知見・教訓を導き出しましょう。

例：事業実施がきっかけとなり当該分野の支援が活発になる
ほかの地域やほかの団体に活動が広がる
行政施策に採用される

正のアウトカム 負のアウトカム

予期したアウトカム	正のアウトカム	負のアウトカム
予期しないアウトカム		

波及効果

引用：事後評価ハンドブック（JANPIA）、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン

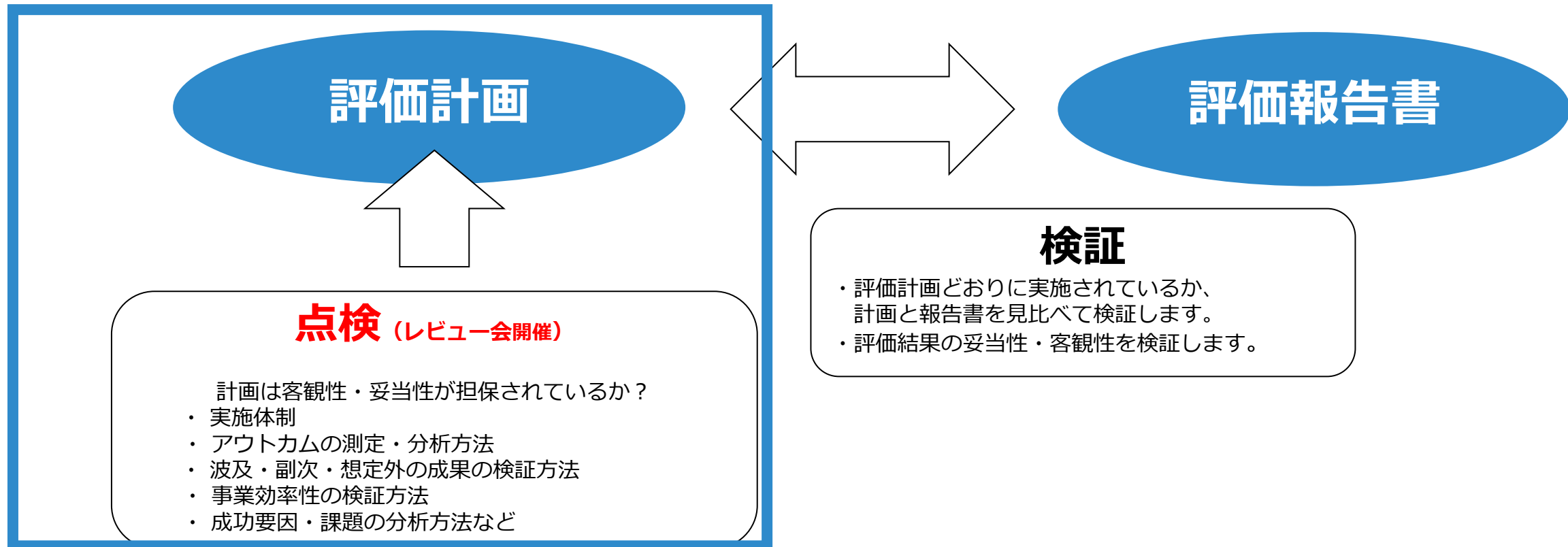
Copyright 2022 JANPIA 本資料の内容を当機構に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

39

点検を専門家によるレビュー会の形式で行う

「点検」：（評価計画立案後）**評価計画の確からしさを実施計画段階**で「点検する」

「検証」：（評価実施後）評価結果を「検証する」



例えば、“受益者にインタビューを実施”を検討している場合…

候補者が10人いたとしたら、
一人目は誰で、二人目は誰を選びますか？

具体的に、どういう質問を、
どういう順番で投げますか？ /もしくは不動でやりますか？

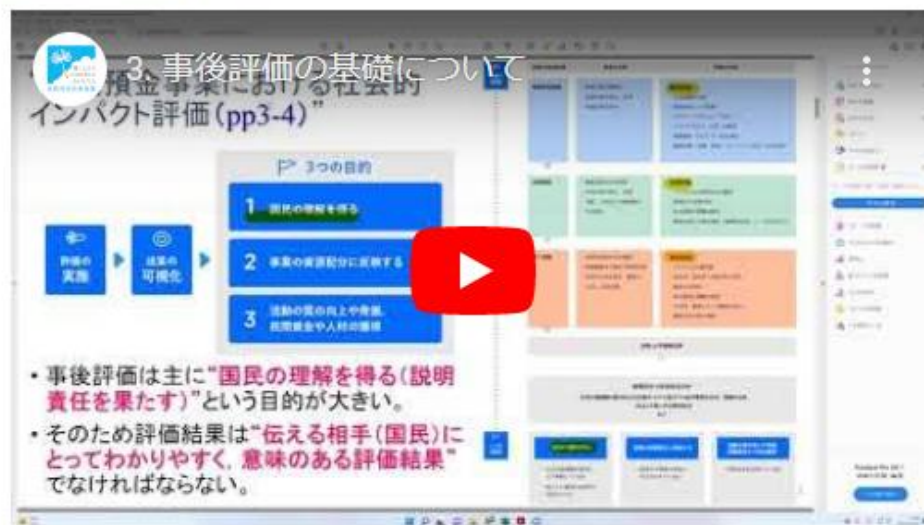
その理由はなぜですか？

団体ページ> 2019年度通常枠 プログラム・オフィサー（PO）育成研修

【3】事後評価の基礎について

講師：新藤 健太氏（日本社会事業大学 社会福祉学部）

資料：PDF形式（5.5MB） 



2日目（2020年11月25日実施）

【2-1】評価について Part2（米原氏による「評価のための調査と分析」）

講師：米原あき氏（東洋大学社会学部）

資料：PDF形式（1.04MB）  | PDF形式（169KB） 

Excel形式（650KB） 



ハンドブック
書類様式
検証

**良い
記載 = 良い
報告**

(文書化の質)

事後評価報告書 事後評価報告書に含める事項としてご案内

事後評価報告書に含める事項

※事後評価報告書は、自由書式です。ファイル形式や項目の記載順等は各団体でお決め頂いて構いません。ただし、内容には以下の事項を含めるようにしてください。

1. 基本情報

この項目では、対象事業についての基本的な情報を記載してください。

- (1) 資金分配団体名
- (2) 資金分配団体事業名
- (3) 事業の種類
(草の根活動支援事業／ソーシャルビジネス形成支援事業／イノベーション企画支援事業／災害支援事業のいずれかを記載)
- (4) 実施期間
- (5) 事業対象地域

2. 包括的な支援プログラム概要

この項目では、資金支援と非資金的支援を一体化した資金分配団体の事業の戦略について記載します。記載にあたっては以下の内容が明確になるように記載してください。

- ①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ
- ②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）
- ③出口戦略

評価関連の定量的な情報の収集を中心に、必要となる最低限の項目(*必須項目)のみをガイドラインとして示し、**自由書式形式**

(自由に検討可能な例)

- ファイル形式
- 章立てや枠組み*
- 記載方法

*該当する内容が含まれていれば、必ずしも独立した章や項目である必要はありません

19年度事業を通じて寄せられた声

- 様式の立て付けで、どうしても書き方が制約される
- 枠組みがなく、書きたいことが上手く表現できない
- どの項目に何を入れたらいいかわからない

結果として、自由記載欄に“事業の価値”が良く伝わる記載があるケースも多い

事後評価報告書に含める事項

※事後評価報告書は、自由書式です。ファイル形式や項目の記載順等は各団体でお決め頂いて構いません。ただし、内容には以下の事項を含めるようにしてください。

1. 基本情報

この項目では、対象事業についての基本的な情報を記載してください。

- (1) 資金分配団体名
- (2) 資金分配団体事業名
- (3) 事業の種類

(草の根活動支援事業／ソーシャルビジネス形成支援事業／イノベーション企画支援事業／災害支援事業のいずれかを記載)

- (4) 実施期間
- (5) 事業対象地域

2. 包括的な支援プログラム概要

この項目では、資金支援と非資金的支援を一体化した資金分配団体の事業の戦略について記載します。記載にあたっては以下の内容が明確になるように記載してください。

- ①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ
- ②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）
- ③出口戦略

評価関連の定量的な情報の収集を中心に、
必要となる最低限の項目(*必須項目)のみをガイドラインとして示し、**記載は自由書式形式**を予定

(自由に検討可能な例)

- ファイル形式
- 章立てや枠組み*
- 記載方法

*該当する内容が含まれていれば、必ずしも独立した章や項目である必要はありません

前パート
再掲

休眠預金等の制度上要請されている報告内容

自団体の強みを理解することや
支援の輪を広げるために**役立つ**報告内容

説明責任を果たすために
不可欠と考える項目です

評価結果・評価プロセスの
効果的な活用を考えましょう

・事業の実績

- インプット
- 活動
- アウトプット

・アウトカム

- 資金的支援
- 非資金的支援
- 効率性
- 成功/疎外要因

・総括

非資金的支援のアウトカムとして期待されていること

非資金的支援のアウトカムとして期待されていることのひとつは、実行団体の活動のしやすさに対する貢献です。（もちろん、資金分配団体の戦略的な意図が重要です。）

組織基盤強化、環境整備のアウトカムの具体例をあらためて見てみましょう。
自団体の事後評価で重要だと思う内容があれば、成果の把握を検討してみてください。

- ・実行団体による事業活動の活性化
- ・連携・協力団体の変化（増減）
- ・賛同者、協力者の変化（増減、結び付き）
- ・当事者の参加の活性化
- ・学びあいの場の増加、活性化
- ・行政や企業等と課題共有
- ・政策への提言・反映
- ・支援地域において様々な

事後評価の作業

2. 事後評価の作業 (5) 知見・教訓

本制度の評価では、「学びの抽出」を重視しています。
課題解決に取り組んできた事業の経験や学びには、将来、ほかの地域で実施される類似課題への取組で参考にできる教訓が含まれています。個々の事業からの教訓が休眠預金活用事業全体の知恵となり、活用されることが望めます。

知見・教訓の例

困難を抱える子どもたちのための居場所事業の場合

子どもの居場所で実施される学習支援活動は、学習を支援する人材がある程度定着して活動することで効果が高まった。そのためには、地域の教育機関（大学や高校など）との連携が有効である。

学習支援の場に卒業生が関与することは、被支援者である子どもの気持ちを支援者側が理解するうえで手助けとなる。子どもたちも、卒業生には自分の気持ちをより理解してもらっていると感じ、安心できる居場所という認識がさらに高まる傾向がある。加えて、卒業生にとっても安心できる居場所になるという副次的効果が期待できる。

活動状況を自治体に継続的に報告してきたことで理解が促進され、当該テーマの5か年計画策定に助言を求められるようになるなど、地域行政の施策の実現に向けた動きに参画できたことは、支援の輪の広がりの確実性を高めるためにも重要である。

出典：事後評価ガイドブック（JANPIA）

Copyright 2022 JANPIA 本資料の内容を当機構に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

44

課題、そこから見えてきた様々な波及効果について、プログラムとして資源の有効活用や費用対効果に【判断】の構成で記載しましょう。また、短期アウトカムが見えてきていれば、それについても記載し

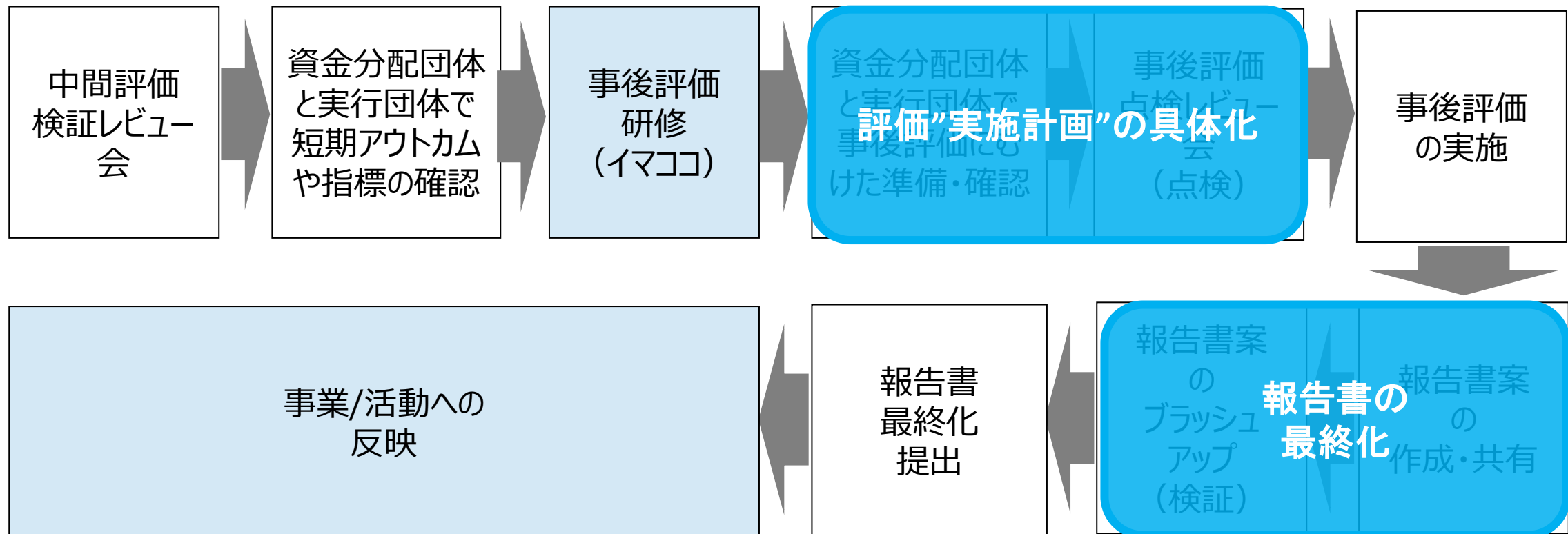
- その他、
- ・ 安定的かつ効率的な事業運営を可能とした要因（あるいは困難であった要因）
 - ・ 助成終了後の事業継続を可能とした要因（あるいは困難となった要因）
- などを記載

重要な成果、それを可能とした要因を記載

アウトカム



事後評価報告のプロセス：まとめ



良い事業 x 良い調査分析 x 良い記載 = 良い報告

(事業の質)

(評価の質)

(文書化の質)

事業の改善
(事前・事後評価他)

事後評価
(前半レクチャー)

ハンドブック
点検

ハンドブック
書類様式
検証

良い
事業

良い
報告

評価結果の報告・活用から考える



1. 評価結果の報告・活用

評価のレポートはコミュニケーションです。評価結果の効果的な活用を考えるには、コミュニケーションの5W1Hを考えるとよいでしょう。

いつ、伝える？

WHEN

どこで、伝える？
(何の機会を活用する？)

WHERE

どのように（どのような
媒体で）、伝える？

HOW

誰に、伝える？

WHO

なぜ、伝える？
報告の目的は？

WHY

WHAT

何を、伝える？

5W1H

次のAct

ますか？

次のActionに向けて、何を知り、誰に何を伝えますか？
事後評価を、何に使いますか

(事前・事後評価他)

(前半レクチャー)

ハンドブック
点検

書類様式
検証